

南房総市地域公共交通総合連携計画 改訂版 概要



事業スケジュール

事業内容		実施主体	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度
南房総市快速バス（うらら）の継続運行	快速バス（うらら）の実証運行の実施および本格運行への定着	南房総市				
	安房白浜駅バスターミナル・千倉駅などを結ぶ路線への拡大		時期未定			
既存バス路線の運行方法の変更と地域デマンド型乗合タクシーの支線運行	平群線、丸線の路線短縮・運行方法の変更		時期未定			
	小規模需要地域のデマンド型乗合タクシー等による支線運行の実施		時期未定			
市内線と市営路線バスの接続			時期未定			
交通結節点の機能強化			時期未定			
サインシステムの導入と魅力の創出						
高速バスの館山以南区間の途中一般乗降制度の導入				時期未定		
多様な運賃制度の導入	運賃半額利用者の拡大			時期未定		
	高校生に対する通学支援			時期未定		
	地域内交通の共通運賃や乗り継ぎ割引料金の設定			時期未定		
コミュニティバスの運行方法の再検討			検討			
住民参画を中心に関係主体が一体となった協働による組織づくり	シンポジウム・アンケートの実施					
	南房総市への転入者へのPR					

計画期間

平成21年度から平成24年度

計画の区域

千葉県南房総市全域

計画策定の目的

本地域の公共交通の果たすべき役割を明確にしながら、地域住民の多様な参画と、地域の関係主体が一体となり、地域のニーズに即した輸送サービスの提供とともに、関係者の合意形成、全体として整合の取れたネットワーク構築を検討し、コミュニティバスの再構築を中心とする計画を策定することを目的とする。

基本的な方針

地域交通の現状

- 市民の3割が市営・民間路線バスを利用（住民アンケート）
- 接続性のない単路長大路線が複数存在し、かえって不便
- 人口減少による利用者減少、運行サービス低下による悪循環の利用者離れ
- 合併に伴う生活環境の変化による地域ニーズと乖離
- 公共交通サービス水準の地域格差の拡大
- 高齢化が進展する中で将来の移動交通手段確保に不安

市民の声

- 運行回数が少なく利用したくても利用できない
- 円滑に乗継ができるようなダイヤがほしい
- 高速バスの行き先によって発着場所が異なり不便
- 乗合タクシーを実現してほしい
- バスルート、時刻表をPRしてほしい
- 高校生の定期代が高い
- 免許を返納したらバスを利用したい
- 「車を使わない」キャンペーンが必要だ



地域交通に関する課題

- 市営路線バスなどの生活交通路線維持
- 地域ニーズに対応した運行への再編
- 来訪者の二次交通の確保
- 地域内にある交通手段の有効活用
- サービス水準確保のためのデマンド型の新たな交通システムの導入
- 地域住民の多様な参画と関係主体が一体となった新たな取り組み



基本的な方針

- ① 日常的生活系交通を確保するとともに、来訪者のアクセス性向上による観光系交通との交通融合を図り、地域公共交通の連携を強化し、地域の活性化に寄与する。
- ② 地域にとって必要な公共交通とはどのようなものか明確にし、地域特性を活かし地域公共交通と南房総観光資源の連携強化により、南房総地域全体の活性化を図る。
- ③ 需要の高い高速バスやスクールバス等の地域内にある交通手段を積極的に活用した効果的な交通サービスの提供を図る。
- ④ 地域公共交通活性化協議会を軸として、地域住民の多様な参画や地域のニーズ把握に努め、利用者の身近な交通手段の確保を図る。
- ⑤ 地域のニーズに即した交通サービスの提供とともに、関係者の合意形成を図り、地域が協働で検討、計画を行うことができる機会の提供と共通認識を図る。

発行・編集

平成21年3月作成

南房総市 企画部 企画政策課

〒299-2492 千葉県南房総市富浦町青木28番地 TEL:0470-33-1001 FAX:0470-20-4598



計画の目標

高齢者・来訪者の移動支援
地域の子育て支援

便利で利用しやすい公共交通の確立

- ①機能・役割を明確化した再編により、わかりやすく利便性の高い公共交通体系を構築し、地域内の交通相互の連携を図り、地域のための公共交通を維持・存続を図る。
- ②観光資源との連携強化により、「観光系」需要の喚起をし、地域全体の活性化を図る。
- ③地域に存在する資源、既存交通システムを活用した効果的・効率的な運行を図る。
- ④地域住民の多様な参画により、使いやすく身近な交通手段を確保する。
- ⑤地域住民、交通事業者、行政との連携による持続可能な仕組みづくり。

地域住民・交通事業者・行政との連携

事業の概要

南房総市快速バス(うらら)の継続運行

- 快速バス(うらら)については、平成20年10月1日から6ヶ月の実証運行を実施している。目的を明確にした上で、正確な利用実態を把握するためにも引き続き実証運行を行い、運行中の定期的な評価・変更を行い、本格運行にむけて地域と行政の連携による生活交通幹線軸としての定着を図る。
- 目的に合った路線、わかりやすい路線、需要に対応した路線等、意義を明確化し関係者との協議により、既存路線の活用や延伸などにより拡大を図る。



既存バス路線の運行方法の変更と地域デマンド型乗合タクシー*の支線運行

- 快速バス(うらら)の本格運行に合わせて、既存のバス路線において小規模需要地域等を再編・短縮し、交通結節点からの支線運行とし、効率的な運行を図る。
 - 支線区間は需要量に応じてサービス向上を図るため、タクシー車両等を活用し、デマンド型乗合タクシー*運行などを検討する。
- *デマンド型乗合タクシーとは：タクシーの特性である自宅から目的地までのドア・トゥ・ドアの利便性を維持しながら、需要に対応し乗合方式で運行する高齢者等に利用しやすい交通手段のこと

交通結節点の機能強化

- 快速バス(うらら)の運行に合わせて、道の駅、支所などを交通結節点として整備する。
 - 白浜地区が安房南部農道整備により市役所、とみうら枇杷倶楽部、富浦駅方面との利便性が高まることから、安房白浜駅バスターミナルの機能を強化する。
 - 白浜地区が安房南部農道整備により市役所、とみうら枇杷倶楽部、富浦駅方面との利便性が高まることから、安房白浜駅バスターミナルの機能を強化する。
 - とみうら枇杷倶楽部高速バス乗降場では、複数のバス事業者のバス停ポールが設置されている上に、混雑時においては乗車待ち行列が輻輳しており、バスを利用しづらい状況にあるため、バス乗降場所の分離、バス停ポールの統合化、路線ごとの待ち行列位置をラインで区分するなど、バスを利用しやすい環境づくりを行う。
 - 高速バス乗降場所のない和田地区への高速バス延伸が図られるよう、和田地区に高速バスターミナル機能と、JR和田浦駅機能強化を含めた「田舎版パーク&ライド」を整備し、もって地域の利便性向上を図る。
- 停・快速バスの本格運行に合わせて、既存路線の平群線、丸線経路上の小規模需要地域の再検証を行い、関係機関との調整を図りながら館山駅から交通結節点となる三芳支所、丸山支所などまでに路線短縮する。



市内線と市営路線バスの接続

○市営路線バス富山線は、館山日東バス市内線(館山航空隊～館山駅～富浦駅前～なむや～小浜)に接続していないことから、地域住民、行政、交通事業者の調整により、接続を図る。

地域住民・来訪者等利用者にわかりやすいサインシステムの導入と魅力の創出

- 地域内の主要交通結節点であるとみうら枇杷倶楽部、ハイウェイオアシス富楽里などにおいて、南房総市公共サインデザインマニュアルとの整合を図ったサインシステムを実施し、その効果を確認しつつ拡大する。
 - 観光地である地域特性を活かし、サイクルアンドバスライド* (くるくる車らん) 相互補完を高め、利便性向上を図るため、南房総市観光プロモーション協議会等との連携を図り、PRを効果的に行うとともに、利用しやすくなるような観光メニューの創出、魅力のある沿道環境づくりを行う。
- *サイクルアンドバスライドとは：南房総地域のレンタサイクル貸出拠点をネットワーク化し、バスやタクシーとくるくる接続することで、マイカーがなくても車(しゃ)らんと回遊できるようにするシステムのこと

高速バスの館山以南区間の途中一般乗降制度の導入

○平成19年度に既に2回実施してきた自治体と交通事業者による「高速バス乗降のための勉強会」や、南房総市地域公共交通活性化協議会の分科会を中心に、南房総市観光プロモーション協議会等、利用者と関連性のある団体等との横断的な協議により、実現へ向けた企画検討会を設置し、課題や解決策の検討を十分に行い、実現化に向けて推進する。

多様な運賃制度の導入

①運転免許証の自主返納制度を活用した運賃半額利用者の拡大

○南房総市では千葉県警との連携により、公安委員会の発行する運転経歴証明書所持者のバス運賃の減免措置を取り入れている。自動車免許の返納は、交通事故防止の観点からも効果があることから、外出機会の喪失や行動範囲が縮小することなく、日常生活を安全で快適に生活できる環境提供の一環として、公共交通を経済的に負担なく利用できるように、市では市営バス路線に対して運賃の割引を実施しており、この制度を他の路線へ適用し、公共交通利用者の拡大を図る。

②公共交通利用者の主流となる高校生に対する通学支援

○子育て支援対策の一環として、家庭の経済的負担の軽減とともに、移動手段を持たない高校生に公共交通を利用しやすい環境を提供するために、通学支援を図る。

③地域内交通の共通運賃や乗り継ぎ割引料金の設定

○交通事業者との協働によるアイデアを検討し、わかりやすい運賃設定や、共通運賃制度、乗り継ぎ割引等、地域公共交通利用者を増やすため、利用者の満足度向上を目指す。

コミュニティバスの運行方法の再検討

○富浦地区・富山地区を運行する市営路線バスについては地域間の公平性に配慮するため、平成20年4月1日より運賃を均一料金の200円に統一しており、更なる公共交通サービス水準の地域格差の是正を図るため、地域が一体となって、地域交通の現状と課題について正確な共通認識を持ち、まず路線の存在意義をはっきりさせ、公共交通維持の再検証を行う。

住民参画を中心に関係主体が一体となった協働による組織づくり

- 今後の公共交通維持存続のためにも、住民参画による関係者が一体となった取り組みが必要であり、地域住民が主導となって地域が自ら考え、行動する組織づくりを推進する。
 - 南房総市地域公共交通活性化協議会を中心に、地域住民の議論の場への積極的な参加の流れを作るためにも、シンポジウムやアンケートを実施し、参画の機会を提供し利用促進活動などに結び付ける。
 - 地域や路線に応じてアンケートやトラベル・フィードバック・プログラム(TFP)*を実施し、需要予測のみならず公共交通を利用する行動プランを検討できるよう、一方通行にならないように要請を図る。
- *トラベル・フィードバック・プログラム(TFP)とは：自動車利用から公共交通機関への転換を目指して、ひとりひとりの自律的な行動変化を促すコミュニケーション型のプログラムで、参加者の外出行動を記録し、その結果を診断する。
- 南房総市に転入してきた方に対して、市内の交通状況を充分周知していないことから、転入届出等の際に、窓口において公共交通マップを配布し、公共交通利用促進をPRする。